

# 本能まちづくりニュース

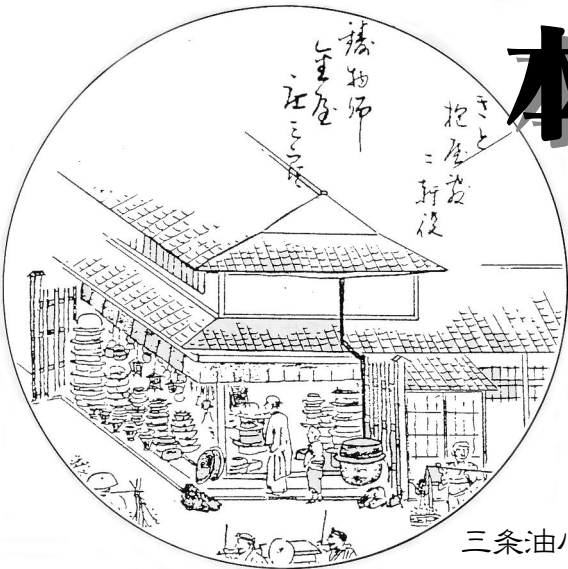
第49号 平成21年5月12日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 杉下浩教

E-mail: [post@honnoh.net](mailto:post@honnoh.net)

URL <http://www.honnoh.net>

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

## 新委員長にバトンタッチ

この度、本能まちづくり委員会発足当初から10年間委員長を務めて来た西嶋直和氏、また副委員長の中村光雄氏が下がり、杉下浩教新委員長はじめ新執行部にバトンタッチしました。若い世代に交代し、学区の変化に対応した新しい風を入れたいという意思からです。

新委員会執行部が率いる本能まちづくり委員会に、ご鞭撻とご協力を、よろしく願いいたします。

### ご挨拶

「心のバリアフリーをめざして」

本能まちづくり委員会委員長

すぎしたひろのり

杉下浩教



「杉下君、来年度からまちづくり委員会の委員長を代わりに頼むで」と西嶋さんに言われたのが今回の委員長交代の始まりでした。西嶋さんがやってこられたように出来るだろうか…という不安がよぎると同時に、委員会をみんなの力で発展させていかななくては…という使命感がわいてきました。

今から10年前、委員会が発足した当時の本能学区の姿と、現在の姿を比べると大きく変わりました。以前よりも一層、新築マンションや戸建住宅がたくさん建てられ、逆に旧来の和装関係の工場や住宅は減ってきました。この現状だけを見れば寂れていく街に見えますが、新しく転居された家族が増え、学区内を元気よく走り回る子供達を見ると、可能性に満ちた明るい未来の本能の姿を思い浮かべられるのは僕だけでなく、他の皆様も同じではないでしょうか。

今回、新しく迎えた谷田吉貞さん、西村勝嘉さんの両副委員長、と土山真典さん、西本謹子さんの両庶務担当の協力を得ながら、今まで展開されてきた活動を礎にして、皆様がより参加しやすい活動体制にしていきたいと思えます。今までまちづくり委員会の活動やイベントに参加したかったけど、垣根が高くて出来なかった…と思っておられる方もいらっしゃると思いますが、少し勇気を出して私たちと一緒に活動してみませんか？きっと、今までと違った新しい本能の姿が見えますし、住んで良かったと思われるに違いないでしょう。学区にお住まいになる新旧住民のみなさまの交流と、お互いの心のバリアフリーを目指して、まちづくり委員会はこれからも活動していきます。

## ■ アンケート報告会 ■ 3月7日本能自治会館で行われました

昨年8～9月に皆様にご協力頂きました「本能に咲かせようのれんの華活動に関する意識調査アンケート」の集計結果を立命館大学乾ゼミ生がまとめ、「本能学区住みよさ調査報告」と題して、データから読み解ける学区住民の地域に対する思いや今後の展望などをグラフ・表を使って解説しました。また報告会に先立ち、まちづくり委員・松見豊和氏(蟠螂山町)がスライドを使って春と秋の「おいでやす染のまち本能」のイベント紹介を行いました。

発表後のディスカッションでは参加者から「のれんの華」の実施エリアをもっと広げて欲しいという要望や町内会に関する意見などが出て、地域に対する熱い思いが語られました。貴重なご意見は、今後のまちづくり活動の方向性につなげていきたいと思えます。

ありがとうございました。(ゆ)



## 「本ものに出会える日」開催

去る3月20日、本能館をメイン会場として、「本ものに出会える日ーおいでやす染のまち本能ー」が開催されました。今回で7回目となる本イベントですが、今回も非常に内容の濃いものとなりました。当日は、前日までの雨は上がったものの、風が強く3月後半としては肌寒く感じられましたが、そんな中でも約650名の方が来場されました。それでは、当日の様子を少しずつ紹介しましょう。

メイン会場の本能館がある油小路通では、もうすっかりお馴染みとなった伝統色ののれんが家々を彩りました。もちろん、こののれんを使った「のれんの華スタンプラリー」も開催され、老若男女を問わず約150名の方に楽しんでいただきました。スタンプラリー完走者には伝統色の3色セットのポストカードがプレゼントされました。毎回色もデザインも変わるこのポストカード、今回は「瑠璃」、「紅梅」、「萱草」の三色でした。もちろん、次回、秋の「おいでやす染のまち本能」の開催時にも、おそらく新しい色とデザインのポストカードが作成されるでしょうから、次回もぜひご参加ください。



また、前号のまちづくりニュースでもお知らせしましたように、今回からは戸建のお宅でのれんを預かっていただき、学区内をさらに「のれんの華」で彩っていくという、「のれん里親制度」が始まりました。油小路通に加え、三条通、西洞院通のご協力いただけるお宅46軒に飾らせていただきました。本当にありがとうございました。また、公開工房のお宅にもものれんが飾られました。今回、アンケートでご協力を申し出ていただいたお宅すべてにはお願い出来ませんでした。今後、徐々に本能学区内で増やしていく予定です。ご協力よろしくお願いたします。

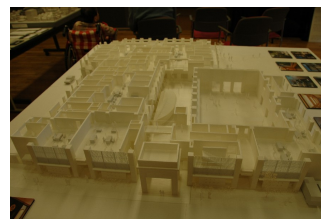


そして、本イベントのメインである「公開工房ツアー」、「実演コーナー」は今年も大盛況でした。今回、職人さんのお宅で染のお仕事を拝見する「公開工房ツアー」では、紋章上絵の鹿島さん、引染の勝山さん、型友禅の中東さん、印染の土山さん、縫い紋の村田さん、袴仕立ての多田さんのお宅にお邪魔して、拝見させていただきました。また、高齢者福祉施設本能の一階実演コーナーでは、京縫刺繍の片岡さん、模様糊置の福本さん、京野菜細工の岡田さん、以上3人の職人さんのご協力を



また、体験工房には、予定人数を超す33名が参加され、職人さんの指導の下、絞り染めの帯揚げを制作されました。

自分好みの着物を職人さんと話しながらか制作できる「マイキモノプロデュース」には30名の方が来場され、8枚の着物が新たに注文されています。自分だけの着物、ぜひ色々な場所へ着て出かけて欲しいものですね。



戦」に安井建築設計事務所が出展されたパネルなども再現展示されました。また、池坊本能クラブの皆さんによる生け花の展示もなされました。

今回来場された方々は、京都市以外にも様々な所から参加されており、公開工房ツアーのデータによると、京都府以外の13都府県からの参加があり、海外からも地域、文化圏を問わず参加があったことが分かりました。本能の染という、伝統の中で育まれてきた技と美に多くの人々が関心を持っており、そしてこのイベントがそのような本能の魅力を知ってもらう良い機会となっているようです。

私達は外の方にも関心を持っていただくと同時に、本能学区にお住まいの方にこそ、このまちの魅力を知っていただきたいと願っています。これまで「おいでやす染のまち本能」に参加されたことのない方も、ぜひ次回11月に開催される「おいでやす染のまち本能」に参加していただけたらと思います。

(立命館大学大学院 澤山幸宏)



今回も京都府立大学の宗田研究室と立命館大学の乾ゼミから、総勢23名の学生がスタッフとして参加してくれました。学生にとっても、毎回公開工房や油小路の交通整理のお手伝いを通して、普段大学の生活ではなかなか知ることの出来ない、京都の魅力や人との触れ合いを実感することが出来、良い経験となっているようです。学生の感想は4ページの「学生さんのおいでやすボランティア記」をご覧ください。

## 本能の歴史雑感 その1

元本能寺南町 高山禮蔵

現在歴史上の英雄武将として人気度一番は、豊臣秀吉や徳川家康を越えて織田信長がその座を占めている。その尾張清州の城主、うつけ者と称された信長、群雄割拠する各地の武将を次々討ち破り、天下統一への道を駆け進む。偉業も半ばに達した頃、折しも中国道を西へと軍勢を進めていた部下の秀吉の要請を受け、軍陣の指揮をとるため少数の部下を伴い、先ずは京へ上り本能寺に宿をとる。しかし秀吉の援軍として出陣を命じていた明智光秀の軍勢に討ち入れ、紅蓮の炎の中にその生涯を終える。この事は誰もが知る事実である。

近年は信長ブームと云うが、人気が高く各所で開催される一般人対象の、例えば京都アスニーなどでの公開講座でもとり上げられる事が多く、その都度多くの人々が聴講に集まる。

私も16世紀中頃から、当時の本能寺の門前、蛸薬師通小川の辺りに続く家に生れ育ち、現在も住み続ける者として興味を持つのは当然で、何回か参加して知識を得ることが出来た。以下は受け売り話のようだがいくつか記してみたい。

### 本能寺の由来

鎌倉時代に日蓮が開いた法華宗(日蓮宗)の僧侶日隆が応永22年(1415)頃、油小路通五条坊門(現仏光寺通)と高辻通の間に寺院を建立、本応寺と号する。これが本能寺の始まりとなる。永享5年(1433)左京四条一坊十五町、つまり北は六角、東は大宮、南は四条坊門(現蛸薬師通)、西は櫛笥の各通に囲まれた地に移転。この時本能寺と寺名を改める。天文5年(1536)頃、天文法華の乱で泉州堺へ移転する。この天文法華の乱とは比叡山の天台宗と法華宗との争いで、室町時代中期以降は幕府の権威が落ち、全国の治安は乱れ文字通り戦国時代となる。仏教の世界でも宗派間で争いが度々あり、この時は法華宗側が敗れ他所への移転を余儀なくされた。例えて見れば現在、イラクやアフガニスタンなどイスラム教徒の間で宗派間の武力闘争が絶えぬのと同様、当時は既成宗派と新興宗派との争いが度々あった。

その後10年足らず天文14年(1545)再び都に戻り堂宇を建立する。場所は北は六角、東は西洞院川、南は四条坊門、西は油小路と1町四方の地である。それから40年後、天正10年(1582)光秀に討ち入れ信長が非業の死を果す本能寺の変で焼失する。焼跡に講堂を再建したが、秀吉の京都大改造で寺町三条坊門(現在の御池通)の地に天正19年(1591)移転させられる。この大改造は市街地をぐるり一周する防衛用の大築堤、御土居の構築や、市内各所に点在する寺院を西は大宮通西側、北は寺ノ内、東は寺町に街並を取り囲む様に集中移転させる。従来の南北に通じる道路の間にもう一本の道路を通す。釜座、衣棚、両替町などの通がそうである。一方西陣の地、東は大宮、西は千本、南は下立売、北は一条辺りまでの広大な場所に二重の堀を巡らした聚楽第を構築する。これは秀吉の壮麗華美な京の屋敷と云った印象を我々は持つが、実体は堅固な城郭で堀の幅は約40m、当時の最新兵器、火縄銃の射程では攻撃が難しいものであった。



「本能の歴史雑感」は3回シリーズです。続きは次号に掲載いたします。

### まちづくりパネル展

4月6日~17日開催

平成20年度「中京区にぎわいのあるまちづくり支援事業」の補助金交付対象事業となった、8つの事業内容を紹介したパネル展が中京総合庁舎1階区民ホールで開催されました。この支援事業は区民主体のまちづくりの取り組みを支援し、「にぎわいのある中京」の実現を図ろうとするものです。今回は、防災意識を高める取り組みや高齢者や障害のある人への理解を深めるための事業、盆踊り等住民交流のイベント開催などがパネルで紹介されました。

本能まちづくり委員会は『本能に咲かそうのれんの華』と題し、「のれんの華」を拡げることで学区全体が「わがま

ち」らしい景観でつながり、このまちに住む人達の気持ちもつながっていくということと、のれんの里親さんを求める提案についての解説をパネル展示しました。訪れた人たちは、学び楽しむ仕掛けの「自分だけの色辞典」(=スタンプラリー帖)やひとときわ目を引く「のれん横断幕」(安井建築設計事務所制作)を興味深そうに眺めていました。なお当委員会に交付された補助金10万円はのれん制作費に当てられました。(ゆ)



## 学生さんのおいでやすボランティア記

前日準備から関わらせていただき、本番は交通、サブを中心にお手伝いさせていただきました。私自身3月の定例会に参加できず、前日準備ではわからないことが沢山ありご迷惑おかけしました。私以外の同期ゼミ生はゼミ丸ごとシンポには参加していたものの、定例会への出席はほとんど無かったために、何のために企画があり、自分が何を何のために行動するべきかが理解できていなかったように感じました。ゼミ内で本番前に企画意義、内容の確認などの意識統一が必要だったと反省しました。

当日は着物姿の委員の方もおられて、参加する方々の企画に対するイメージもつきやすかったのではないのでしょうか。のれん、写真や着物を使い、本部のみならず油小路も色鮮やかに染められた本能学区は、非常にわかりやすい会場だったと思います。

参加された方々は、企画中の委員の皆さんの温かい笑顔と熱々の甘酒で、寒さも気にせず楽しんでいただけていたと思います。目立ったトラブルも無く、西嶋さんのおっしゃった通り無事故安全で成功を収めました。私自身も、本能のこれまでの経験と団結力が垣間見えた企画に参加できて光栄でした。今後は定例会から参加し続けて、来年にはもっと良い企画ができるように精一杯がんばります。お疲れさまでした。(立命館大学 山崎 達哉)

私は伝統産業の日に行われた本ものに出会える日のイベ

ントにスタッフとして参加させていただきました。

まちづくり委員会の方や大学の先輩方が準備されてきたこのイベントのお手伝いをさせていただくという気持ちでいましたが、私も工房を見学して伝統産業の技術を見せていただいたり、美しい色ののれんがかかった通りを歩き、スタンプを集めながら伝統色の名前を知ったりすることでこのイベントを満喫することができました。

また、元気に挨拶してくれる子供たちや熱心にお仕事の説明をしてくださる職人さんたちに出会い、これから1年間この地域でまちづくりのお手伝いができることが嬉しく楽しみになりました。イベントを運営する側も地域の方々も参加された方々も楽しめる素晴らしいイベントだったと思います。

秋のイベントも今回以上の大成功となるように、私もこれから一生懸命まちづくり委員会のお手伝いをしていきたいと思います。(京都府立大学 吉川 理咲子)

今回私は本能地区のことをよく知らないままこのイベントのお手伝いをさせていただきましたのですが、この活動を通して、本能のまちのさまざまな魅力を知ることができました。

まず、本能学区の多くの家にはそれぞれに異なる40色の暖簾が掛けられ、通り一帯がとても華やかになっていました。暖簾のかかった家の軒下にあるスタンプを押していくスタンプラリーでは、特

に小さな子ども達が夢中になって色の名前とその色を確認しながら楽しんでスタンプを押していく様子が見られ、楽しく染めの良さを知ってもらえる良いきっかけになったのではないかと思います。

また、公開工房ツアーには京都以外の府県から参加されている方々が多く、私はとても驚きました。皆さん工房の方の話を熱心に聞き入っておられ、一緒に聞いている私も、染物が出来上がるまでのさまざまな工程について知ることができました。職人の方々は気さくな方ばかりで、ツアーの方の質問にも丁寧にわかりやすく答えておられました。また質問をしやすい雰囲気になっていたのもよかったと思いました。直接職人さんの話を聞き、染めの過程を間近で見るということはなかなかできないことなので、とてもいい機会になりました。

その他、着物やのれんの展示、また地域の方の生け花の展示などがなされ、来てくださった方々を楽しませる工夫がたくさん詰まったイベントだったと感じました。このようなイベントが成功したのは、やはりまちを愛する人々と職人さんの努力や協力があってこそだと思います。職人さんの中には、染め物が以前に比べて売れなくなったことや後継者が不足していることを嘆いている方もおられましたが、このイベントを通して、染め物の良さや「染のまち本能」の良さが多くの人々に伝わってほしいと思いました。(立命館大学 坂野 梓)

**ひとこと** ◎公開工房でいつもご協力いただいていた京都市伝統産業技術功労者 松本勝氏が、3月30日に享年81歳でお亡くなりになりました。金彩工芸で独自の技法をお持ちになり、数多くの作品を残されました。大変惜しまれます。ご冥福をお祈り申し上げます。(N村)

◎本能学区でまちづくり活動のお手伝いをさせていただくようになって早3年。今回初めてニュースの執筆に参加させていただきました。読み辛い点多々あるかと思いますが、楽しんでいただければ幸いです。(たくさん)